

# 外科学第一

## 1 構成員

	平成22年3月31日現在
教授	1人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	1人（1人）
助教（うち病院籍）	5人（3人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	5人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	3人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	2人
合 計	17人

## 2 教員の異動状況

椎谷 紀彦（教授）	（H21. 2. 1～現職）
山下 克司（講師）	（H15. 1. 1～現職）
和田 英俊（助教）	（H10. 7. 1～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～現職）
寺田 仁（助教）	（H13. 4. 1～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～現職）
鷺山 直己（助教）	（H13. 6. 1～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～現職）
小倉 廣之（助教）	（H18. 1. 1～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～現職）
大倉 一宏（診療助教）	（H21. 9. 1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成21年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	7編（1編）
そのインパクトファクターの合計	16.68
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	2編（2編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	2編（2編）

(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	5編 ( 3編)
そのインパクトファクターの合計	2.57

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Shiyya N, Wakasa S, Matsui K, Sugiki T, Shingu Y, Yamakawa T, Matsui Y: Anatomical pattern of feeding artery and mechanism of intraoperative spinal cord ischemia. Ann Thorac Surg 88(3), 768-771, 2009.
2. 椎谷紀彦, 松崎賢司, 松居喜郎: 胸部下行領域におけるstent graftとopen surgeryの棲み分けと成績の現状. 脈管学, 49(4), 281-286, 2009.

インパクトファクターの小計 [3.644]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Sugiki T, Sugiki H, Shiyya N, Matsui Y, Sugiki K: New automated wavelet analytical system with a cellular phone for recording intercellular phone remote transmitted bileaflet valve sound. J Artif Organs 12 (4), 232-241, 2009.
2. Kunihara T, Iizuka K, Sasaki S, Shiyya N, Sata F, Matsui Y: Optimal proportions of gelatin-resorcin-formalin components in aortic surgery. Eur J Cardiothorac Surg 36 (6), 962-966, 2009.
3. Shingu Y, Shiyya N, Ooka T, Tachibana T, Kubota S, Morita S, Matsui Y. Augmentation index is elevated in aortic aneurysm and dissection. Ann Thorac Surg 87 (5), 1373-1377, 2009.
4. Wakasa S, Shiyya N, Tachibana T, Ooka T, Matsui Y. A semiquantitative analysis of reactive astrogliosis demonstrates its correlation with the number of intact motor neurons after transient spinal cord ischemia. J Thorac Cardiovasc Surg 137 (4), 983-90, 2009.
5. Kunihara T, Shiyya N, Wakasa S, Matsuzaki K, Matsui Y. Assessment of hepatosplanchnic pathophysiology during thoracoabdominal aortic aneurysm repair using visceral perfusion and shunt. Eur J Cardiothorac Surg 35 (4), 677-83, 2009.

インパクトファクターの小計 [13.033]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 椎谷紀彦: 【急性大動脈解離の集学的アプローチ(その2)】急性大動脈解離に合併する腸間膜動脈、腎動脈灌流異常の治療戦略. 循環器科, 66(6), 587-591, 2009.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. 阪原晴海, 小倉廣之: 【私が推す乳がん画像診断法】的確な診断への根拠を示す 次世代の乳

がん画像診断技術「光マンモグラフィ」. 新医療. 36 (12), 92-95, 2009.

インパクトファクターの小計 [0.00]

#### (4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 椎谷紀彦: 高齢者に多い動脈瘤. 長寿社会を元気に生きる, 58-63, 静岡新聞社, 2010.
2. 小倉廣之: 石灰化の評価とフォローアップ. 戸井雅和編, 190-197, 医薬ジャーナル社, 2009.

#### (5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 磯野忠大, 和田英俊, 小林利彦, 小西由樹子, 宮木祐一郎, 小泉圭: 腹腔鏡下手術中の膀胱損傷で診断が得られた鼠径部膀胱ヘルニアの1例. 日鏡外会誌14(5), 553-556, 2009.
2. 和田英俊, 小林利彦, 小西由樹子, 磯野忠大, 宮木祐一郎, 椎谷紀彦: スポーツヘルニアに対して腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術を施行した1例. 日鏡外会誌14(5), 549-552, 2009.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Suzuki H, Fujigaki Y, Mori M, Yamamoto T, Kato A, Wakahara N, Hayashi H, Yamashita K, Kazui T, Hishida A: Giant coronary aneurysm in a patient with systemic lupus erythematosus. Internal Med 48, 1407-1412, 2009.

インパクトファクターの小計 [1.040]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kubota S, Wakasa S, Ooka T, Tachibana T, Shiuya N, Matsui Y: A case of Carpentier-Edwards pericardial bioprosthesis in mitral position explanted 22 years after implantation. J Artif Organs, 13, 48-50, 2010.
2. 山川智士, 椎谷紀彦, 松居喜郎, 菅敏郎: カテーテル治療後に再発したPaget-Schroetter症候群の1手術例. 日本血管外科学会雑誌19(1), 7-11, 2010.

インパクトファクターの小計 [1.532]

#### 4 特許等の出願状況

	平成21年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成21年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)

(2) 厚生労働科学研究費	1件	(50万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件	( 0万円)
(4) 財団助成金	0件	( 0万円)
(5) 受託研究または共同研究	7件	(140万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	23件	(1290万円)

(2) 厚生労働科学研究費

1. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業 脊髄障害防止の観点からみた胸部下行・胸腹部大動脈瘤外科治療ないしはステントグラフト治療体系の確立(分担), 代表: 国立循環器病センター 荻野 均

(5) 受託研究または共同研究

1. 浜松ホトニクス(株), 放射線科共同; 近赤外線を利用した乳がん検査装置の開発/研究(JST)
2. 日本メドトロニック: ステントグラフト製造販売後調査
3. テルモ: 人工血管製造販売後調査
4. ジャパンゴアテックス: ステントグラフト製造販売後調査
5. ノバルティスファーマ
6. グラクソ・スミスクライン
7. ブリストルマイヤーズ

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	6件
(2) シンポジウム発表数	0件	5件
(3) 学会座長回数	0件	13件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	20件
(6) 一般演題発表数	1件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

H Ogura, Nasu H, Sahakara H: The Spectroscopic Feature of The Breast Cancer. San Antonio Breast Cancer Symposium 2009, 2009年12月, サンアントニオ (USA)

(2) 国内学会の開催・参加

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 椎谷紀彦: 大動脈の手術-出血で困らないために-, 日本胸部外科学会, 2009年10月, 横浜 (ランチョンセミナー)
2. 椎谷紀彦: 大動脈外科と脊髄保護-コンセプトの変化と麻酔科の役割-, 日本臨床麻酔学会,

2009年11月，浜松（招請講演）

3. 椎谷紀彦：胸腹部大動脈瘤の手術。日本胸部外科学会北海道地方会，2010年2月，札幌（ランチョンセミナー）
4. 椎谷紀彦：胸腹部大動脈瘤の手術update。第6回心臓血管外科研究会，2009年7月，仙台（招請講演）
5. 椎谷紀彦：大動脈基部病変に対する最近の取り組み。三重大学胸部心臓血管外科学教室研究総会，2009年8月，犬山（招請講演）
6. 椎谷紀彦：胸腹部大動脈瘤の手術。第19回岡山心臓血管外科手術手技研究会，2010年1月，岡山（招請講演）

### 3) シンポジウム発表

1. 椎谷紀彦：胸腹部大動脈瘤に対するopen surgery。日本臨床外科学会総会，2009年11月，京都（ワークショップ指定演者）
2. 椎谷紀彦：A型大動脈解離の再手術。第16回大動脈瘤シンポジウム，2009年6月，岐阜
3. 和田英俊，小林利彦，小倉廣之，小西由樹子，磯野忠大，宮木祐一郎，小泉 圭，照屋史子，椎谷紀彦：腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術における鼠径部ヘルニア新分類の検討。第7回日本ヘルニア学会学術集会，2009年4月，東京（コンセンサスマーティング）
4. 和田英俊，小倉廣之，小西由樹子，宮木祐一郎，小泉 圭，野澤雅之，照屋史子，椎谷紀彦：腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術の術後合併症の予防と対策。第71回日本臨床外科学会総会，2009年11月，京都（ワークショップ）
5. 小泉圭，鈴木浩一，小西文雄：炎症と消化器発癌 潰瘍性大腸炎における粘膜組織の異常メチル化を評価し発癌の危険性を予測する。JDDW2009 第51回日本消化器病学会総会，2009年9月，京都

### 4) 座長をした学会名

椎谷紀彦：第39回日本心臓血管外科学会（ランチョンセミナー7）2009年4月，富山

椎谷紀彦：第39回日本心臓血管外科学会（シンポジウム4）2009年4月，富山

椎谷紀彦：第37回日本血管外科学会（ポスター胸部大動脈2）2009年5月，名古屋

椎谷紀彦：第52回関西胸部外科学会（大血管4）2009年6月，岡山

椎谷紀彦：第62回日本胸部外科学会（心臓、大動脈1）2009年10月，横浜

椎谷紀彦：第47回日本人工臓器学会（補助循環2）2009年11月，新潟

椎谷紀彦：第40回日本心臓血管外科学会（胸腹部大動脈）2010年2月，神戸

山下克司：第52回関西胸部外科学会（大血管5）2009.06.05，岡山

山下克司：第278回東海外科学会（心、血管1）2009.10.4，浜松

山下克司：第92回東海心臓外科談話会（一般演題1）2010.02.06，名古屋

和田英俊：第7回日本ヘルニア学会学術集会

和田英俊：第71回日本臨床外科学会総会  
 和田英俊：第22回日本内視鏡外科学会総会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

椎谷紀彦：日本血管外科学会 理事  
 椎谷紀彦：日本心臓血管外科学会 評議員，学会雑誌編集幹事  
 椎谷紀彦：日本胸部外科学会 評議員  
 椎谷紀彦：日本脈管学会 評議員  
 椎谷紀彦：日本人工臓器学会 評議員  
 椎谷紀彦：日本大動脈外科研究会 常任世話人  
 椎谷紀彦：血管外科アカデミー 世話人  
 椎谷紀彦：大動脈瘤シンポジウム 世話人  
 椎谷紀彦：関西胸部外科学会 評議員  
 椎谷紀彦：東海外科学会 評議員  
 椎谷紀彦：東海心臓外科懇話会 幹事  
 椎谷紀彦：血管外科学会東海地方会 評議員

山下克司：関西胸部外科学会 評議員  
 山下克司：日本循環器学会 東海支部評議員

和田英俊：日本内視鏡外科学会 評議員  
 和田英俊：日本臨床外科学会 評議員  
 和田英俊：日本ヘルニア学会 評議員，評議員選定委員，保険診療委員  
 和田英俊：日本ヘルニア学会東海地方会 世話人  
 和田英俊：単孔式内視鏡手術研究会 世話人

小倉廣之：日本乳癌学会 評議員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリース数は除く）	1件	0件

(1) 国内の英文雑誌の編集

日本心臓血管外科学会雑誌

(3) 国内外の英文雑誌のレフリース

椎谷紀彦：Eur J Cardio-Thorac Surg (Europe) 8回 [IF=2.397]

椎谷紀彦：Surg Today (Japan) 4回 [IF=1.050]

椎谷紀彦：Circ J (Japan) 2回 [IF=2.692]

椎谷紀彦：Gen Thorac Cardiovasc Surg 2回 [Medline]

椎谷紀彦：J Artif Organs (Japan) 1回 [IF=1.532]

椎谷紀彦：Ann Vasc Disease (Japan) 1回

## 9 共同研究の実施状況

	平成21年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	3件
(3) 学内共同研究	0件

### (2) 国内共同研究

1. 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業：脊髄障害防止の観点からみた胸部下行・胸腹部大動脈瘤外科治療ないしはステントグラフト治療体系の確立
2. 浜松ホトニクス(株)，放射線科；近赤外線を利用した乳がん検査装置の開発／研究（JST）
3. 北海道大学，分子解剖学：質量顕微鏡を用いた虚血脊髄のmetabolomics研究

## 10 産学共同研究

	平成21年度
産学共同研究	0件

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. デキサメサゾン誘導遺伝子のメチル化と発癌

デキサメサゾン誘導遺伝子の1つが癌細胞で高頻度高密度にメチル化しており，メチル化によりその発現が制御されていることを各学会で報告してきた。ただし，その機能に関して今まで報告例が無く全く未知であった。同遺伝子に対するSiRNAを作成し，遺伝子機能をノックダウンさせることで機能検討を施行した。同遺伝子のアポトーシス経路への関与が示唆され，癌細胞に対する抗がん剤（カンプトテシン）のアポトーシス作用を制御することが明らかになった。（この研究は，自治医科大学附属さいたま医療センターと協力して行なっている。）

## 13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

### 1. 単孔式内視鏡外科手術

臍の中1カ所の傷から腹腔鏡手術を行なう単孔式内視鏡手術の技術を動物実験などで習得し臨床で行なった。2009年6月より単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術を開始し，2010年1月から単孔式腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術を開始した。今後はさらに他の手術にも応用する予定である。

## 14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. 近赤外線を利用した乳がん検査装置の研究；国内では乳がん診断技術としては唯一の研究であり，国際的にも独創的な研究として注目を集めている。

## 15 新聞，雑誌等による報道

1. 椎谷紀彦：FMハローおはようクリニック 大動脈瘤について 2009/5/25, 6/1
2. 椎谷紀彦：浜松医科大学公開講座 長寿社会を元気に生きる 高齢者に多い動脈瘤（静岡新聞，SBSテレビ，ラジオ）
3. 一般外科グループ：2010年3月8日の『静岡新聞』朝刊に単孔式内視鏡手術の記事が掲載